

---

# ガリガリ君の悲劇

セテツメ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ガリガリ君の悲劇

### 【Nコード】

N7898E

### 【作者名】

セテツメ

### 【あらすじ】

やっぱり何だかんだ言っても日本の朝はガリガリ君でしょう！・・・  
・と思っっているのは自分だけ？

やっぱりガリガリ君は最高だ！！梨味はやばいねっ！うますぎる！

そして今、夜勤あがりというこの開放的な気分がより一層ガリガリ君のうまさを引き立てているのは疑いようのない事実だ。

くっそ〜！なんでこんなに美味いんだガリガリ君！反則だぜ！特にあの端っこの部分、つまり一番最初に食べるところと最後に食べる場所！あそこはやばい！ガリガリエキスが満載だっ！もう中間の部分なんて結局オマケでしかないよね！

そして早朝特有のすんなりと心地よく体に行き渡る空気と朝日を浴びながらにガリガリ君を味わい、自転車で乗って家路につく。贅沢っ！

自転車で帰っているといろんな人と行き違う。朝犬の散歩をしているばあさんとかじいさんとか中年のおばさんとかおじさんやら。そして皆一度は必ずこちらを見てくる。そんなに朝からガリガリ君を食っているのが珍しいのか？

一瞬そう思ったがすぐに本当の理由がわかった。

そう、みんな珍しくて見ているんじゃない、羨ましくて見ているんだ！本当はガリガリ君食べたくて仕方が無いんだろう！わかる！俺にはわかるよ君たちの気持ち！朝からガリガリ君を食べるなんてそんな贅沢なかなかないからな〜！なんか>なくがなんとなく多いな！

そんな俺のことを羨ましがっておっさんおばさんたちの為に俺はよりガリガリ君を美味そうにかなり大げさで芝居じみた食べ方をする。

わざとガリガリ君を頭上に置き、自分は下の方からこれでもかど口を広げガリガリ君のエキス一滴逃すものかと待ち構える。

行き違う奴らはそんな俺をやたらまじまじと見つめてきた。やつらはきつと今こう思ったはず。

「ああ！全てを自分一人で平らげてしまつとは何と殺生な！せめて不意に零れ落ちてしまつ一滴だけでも我らに恵んでくださいませ  
~~~~~」

まあ俺とて鬼ではない。そこまで言うのなら貴様らに一滴ぐらい恵んでやらんことも無いが……

とでも言うと思ったかアホが！やらねーよ！絶対にやらねー！一滴だって恵んでやるものか！貴様らにガリガリ君食わせるくらいなら、このまま一切食わないでガリガリ君が溶けていくのを眺めているほうがまだましだ！貴様らはそのまま俺がガリガリ君を美味しそうに頂くのを黙って唾でも飲んで眺めているがいい！

ああ……なんていい気分なんだ、やっぱり朝のガリガリ君は最高だ……さてと……そろそろガリガリ君も残すところあと僅か、最後に残るこのガリガリエキス満載な部分をより盛大にいかにも美味そうに食って行き違つやつ等に見せ付けてやろうとガリガリ君をさらに頭上へとやった。

自然に俺自身も顔をより上へ向ける。もう前なんて見えちゃいない。今俺に見えているのは朝日を浴びて神々しく輝く残り僅かなガリガリ君のみ。

さあ、行き違つアホ共よ。もつと俺たちを見る。そして羨ましがりやがれ。そしてガリガリ君食えなくて苦しむがいい！ほらほら残



ガ〜リガ〜リ〜くん ガ〜リガ〜リ〜くん ガ〜リガ〜リ〜くん

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7898e/>

---

ガリガリ君の悲劇

2011年10月5日01時23分発行